

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900678	事業の開始年月日	平成10年1月1日
		指定年月日	
法人名	有限会社 ライフサポートいずみ		
事業所名	有限会社 ライフサポートいずみ		
住所	(2 3 8 - 0 0 3 4) 横須賀市金谷 2 - 3 - 2 9 島貫ビル 1 階		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員 計	9 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果 市町村受理日	平成22年4月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・H21年4月より新しい理念に基づき実践を試みている。家族と共にまた、地域の一員としての活動として、家族と地域の方々と共に納涼会、夏祭りさらに町内の方々の訪問（子供太鼓、婦人会の踊り）も多く、交流が深まっている。・看護師が2名おり看取りのケアに取り組んでおり今年度は3名のご利用者を看取った。今年度は看取り体験を認知症ケア学会全国大会に発表し専門分野の方々からの知見を得た。パーソン・センタード・ケアを基本に学び実践してギブアップを言わない介護をめざしている。今年度からは神奈川県からの依頼を受け、実践者研修、実践リーダー研修などの受け入れを実施し互いに学びあっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成22年2月6日	評価機関 評価決定日	平成22年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
①平成10年1月に開所した施設で12年の実績がある。地下1階、地上2階建のビルの1階ワンフロアを改修し1ユニットのグループホームとなっている。他に先駆けたグループホームであるため、社長は函館の愛の里の研修に2週間参加後設立されたと云う。開所10周年を機に各ホームで介護理念の見直しを実施した。職員が中心となって、ご利用者、ご家族にも意見を聞いている。ご利用者には系統的に話は聞けないがお風呂場などでも話を聞いている。近々、国道の反対側に移転する予定であり、新理念を中心にケアを展開して行くことにしている。新しいホームは衣笠駅からバスで3つ目の所にあり、交通の便の良い2ユニットで、1ユニット増える点で待機の解消が出来る。
②地域との関係については、現ホームでは非常に良い関係が出来ている。新しい場所での地域との関係は新たに構築する必要があると思うが、自治会長、民生委員、運営推進会議などとの関係は継続するので早々に関係構築が出来ると考えている。引越しの前段階で既に地域から好意的に受け入れて頂いている。
③ケアに対する考え方についてはオーナーは常に先進的であり、センター方式をいち早く取り入れ、ICF、パーソンセンタードケアもケアに取り入れ、次はバリデーションをベースとしたコミュニケーションを取り入れて行く予定にしている。ケアについての考え方では「介護は建物では無い、人である」「ギブアップを言わないケア」が原点で、ご利用者ときちんと向き合う、ご利用者の感性と向き合うことを基本とし、「お世話させていただきます」と言う言葉をキーワードとし、介護者で越えられないもの、ご家族にしか出来ないものがあることも理解して、ご利用者が意思決定出来るケアを常に追及するようにしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	有限会社 ライフサポートいずみ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本年、4月より新しい理念に沿い家族、地域の方々と交流を持ち過ごしている。6ヶ月後、事例を通し振り返っている。	昨年、開所10周年を機にホームで介護理念の見直しを実施した。職員が中心となって、利用者、ご家族にも意見を聞いている。利用者さんには系統的に話は聞けないがお風呂場などでも話を聞いている。昨年4月より新しい理念に沿い家族、地域の方々と交流を持ち過ごしている。6ヶ月後、事例を通し振り返を実施した。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに参加、お神輿もホーム前にて来てくださる。子供会の太鼓グループ、婦人会の日本舞踊の訪問があった。定期的にみえるボランティアの方2名いる。	地域の夏祭りに参加（席を用意してくれる）、お神輿もホーム前にて来てくれる。子供会の太鼓グループ、婦人会の日本舞踊の訪問もある。定期的にみえるボランティアの方は2名いる。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が外部講師で認知症の研修会を行う。電話相談、見学者等を随時受けている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回定期的に行われ意見交換と親睦が図られ、事業の広がりが感じられる。	横須賀方式により地域会議年2回と事業所会議年4回を定期的に実施し、意見交換と親睦が図られ、事業の広がりを図って行く。地域会議のメンバーで行っていたバザーはインフルエンザの為中止した。名称を変えて実施して行きたいと考えている。会でのバリデーションをベースとしたコミュニケーションの勉強会も実施して行きたい。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内のグループホーム協議会に加入し会議には市の担当も参加、意見交換をしている。地域包括運営推進会を同様である。	市内のグループホーム協議会に加入し会議には市の担当も参加、意見交換をしている。支援センターとも同様である。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤帯の時間まで玄関はオープンである。夏季にはドアを開けている。当ホームは身体拘束廃止推進施設となり、活動を開始している。	夜勤帯の時間まで玄関はオープンである。夏季にはドアを開けている。当ホームは身体拘束廃止推進施設（推進モデル施設）となり、活動を開始している。その研修会も実施して行く予定である。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市及び県主催の外部研修に参加し、ホーム内で発表、スタッフ全員で学び常に「人の尊厳」を意識してケアをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市及び県主催の外部研修に参加し、ホーム内で発表、スタッフ全員で学び理解している。現在、該当する利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬改定など5月に家族会を持ち書面を用いて説明し、書面で承諾を得ている。平成22年3月の移転に向けて家族会を1月21日に実施予定である。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、苦情の窓口を明示し、家族が見てわかるように掲示している。また、理念に沿い家族会で意見交換し自由に発言していただき取り入れている。	不満、苦情の窓口を明示し、家族が見てわかるように掲示している。また、理念に沿い家族会で意見交換し自由に発言していただき取り入れている。理念の改訂についてもご協力頂き、ご家族の意見も反映した新理念を構築することが出来た。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3者（利用者、家族、スタッフ）で作った新しい理念に基づいたケアを念頭に、毎月のカンファレンスで意見交換して取り入れている。	3者（利用者、家族、スタッフ）で作った新しい理念に基づいたケアを念頭に、毎月のカンファレンスで意見交換して取り入れている。スタッフが中心となって新理念を作ったことで職員のベクトルが一層強固になったと考えられる。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数に対して順次グレードアップの研修が受けられるよう配慮してる。・介護職員処遇改善交付金を申請、取りいれ職員処遇改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・興味関心のある物、また経験年数で内容を定め研修への参加を推進している。ホーム内でも研修を行い互いに学びスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市GH協議会に加入して、研修参加や情報交換をしている。また、スタッフ交流研修も受け入れている。・衣笠第一地区合同で複数事業所連携事業を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	和やかな雰囲気を作り「その人にあるがまま」を受け入れ笑顔で傾聴し、安心感や満足のいく関わりに努力している。（個と向き合うことに重点を置いている）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の事前訪問から、家族が話しやすい環境づくりに配慮し、面会場面などでは細かい情報交換をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたら、まず、本人や家族が何を求めているかをよく話を聞きながら見極めることが第一であり、その意向を大切にして相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に介護し、される関係であり人生の先輩として教えられ学ぶことが多く、癒しのエールを貰っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念に基好き家族が希望に応じて食事を用意し共に過ごされている。・誕生会の参加、年間行事の参加では共に役割分担して楽しんでいる。・外出時付き添いもしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅を訪問し近所の方と会ったり、馴染みの飲食店や、スーパーに出かけている。・住んでいた近辺に散歩やドライブに出かけている。	自宅を訪問し近所の方と会ったり、馴染みの飲食店や、スーパーに出かけている。・住んでいた近辺に散歩やドライブに出かけている。新しいホームでも近隣の方々との交流を進めて行きたい。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いの関係を大切にして、利用者同士が語り合えるようにデイルームの席を工夫している。スタッフが入り会話が円滑になるようサポート、場面作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会と「看取りをして」の気持ち話してくださり、委員も継続されボランティアに週一回来ている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何が得意で、何を希望されているか、出来ることは何か、利用者が輝いて、充実して過ごされるもの何か常に探り利用者の持つ力見出すよう努めている。	何が得意で、何を希望されているか、出来ることは何か、利用者が輝いて、充実して過ごされるもの何かを常に探り利用者の持つ力を見出すよう努めている。今年度はバリデーションをベースとしたコミュニケーションを取り入れて行く予定にしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の家庭訪問、アセスメントシート、医療やADL情報とうして全体像の把握に努めている。馴染みの品々や生活習慣を踏まえ環境の変化を最小限度にするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1～2回の試みで出来る出来ないを決めるのではなく、小さな変化に目を向け、その意味を探るよう努力していくことが利用者の力を引き出す鍵となる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち制をとりいれおおむね3～6ヶ月に見直しをしている。アセスメントは、症状や状況の変化に応じてはカンファレンスで話し合い利用者の心情を汲み取る努力をしている。	受け持ち制をとりいれおおむね3～6ヶ月に見直しをしている。アセスメントは、症状や状況の変化に応じてはカンファレンスで話し合い利用者の心情を汲み取る努力をしている。チームケアを中心とし、パーソンセンタードケアのエコグラムに表れた変化を大切にケアに取り組んでいる。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表や経過記録をベースに種々の記録を関連させて、互いの情報を分析して実践に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の入院時、手術時と立ちあいの同席視家族を支える。利用者希望のリンパマッサージの依頼。 個別ケアの外出同行をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる習字、絵画、草鞋作り、ハモニカ演奏、傾聴ボランティアさらに、中学生の福祉体験学習、県立福祉大学看護学部の実習を受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人のかかりつけ医、ホームの提携訪問診療医、地域の病院など病状に応じて判断し早めに適切に受診に繋げている。	個人のかかりつけ医、ホームの提携訪問診療医、地域の病院など病状に応じて判断し早めに適切に受診に繋げている。看護師が中心のホームであり行き届いた医療連携が為されている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師でありさらに、常勤職員に1名看護師がいる。24時間スタッフ間の連携を密にして利用者の安全に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から、積極的に主治医と面談し、家族の意向を踏まえながら早期退院に向けて相談している。入院中は職員が訪問し馴染みの関係をたもち認知症の進行予防に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「終末期の希望書」や「安らかな看取りのために」までの一連の指針があり、本人、家族を中心に据えたターミナルケアを実施している。21年度は3人の利用者の看取りを行った。	「終末期の希望書」や「安らかな看取りのために」までの一連の指針があり、本人、家族を中心に据えたターミナルケアを実施している。21年度は3人の利用者の看取りを行った。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は実技とともにカンファレンスで全員で学習し応急手当はマニュアルが出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	家主の方に協力していただいて、年2回の防災訓練を実施したい。このビルはセキュリティーが完備し消防への通報器もついている。	家主の方に協力していただいて、年2回の防災訓練を実施したい。このビルはセキュリティーも完備し消防への通報器もついている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当ホームの「個人情報保護法」に基づき、プライバシーや個人の尊厳保持に努めている。真の尊厳とは何か考え続けている。毎月のカンファレンスで事例検討をし深めている。	当ホームの「個人情報保護法」に基づき、プライバシーや個人の尊厳保持に努めている。真の尊厳とは何か考え続けている。毎月のカンファレンスで事例検討をし深めている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとり一人その人にあった考え、自己決定できるよう説明の仕方を工夫し場面を多く取り入れている。「待つこと」の大切さを合意している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう、日々の利用者に目を向けその人のペースを守りその人らしく暮らせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の更衣や外出時本人が好みの物を選び、約毎月の理髪で髪は整えられている。また、外出、行事時には化粧、マニキュアでおしゃれを楽しんでいる。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の特技を生かし職員とともに調理、盛り付け、片付けなど楽しみしながら互いに支え合っている。行事、誕生会のメニューは利用者が決めている。	独自のメニューで、利用者の特技を生かし職員とともに調理、盛り付け、片付けなど楽しみしながら互いに支え合っている。行事、誕生会のメニューは利用者が決めている。		今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が減少している人は所定用紙で摂取量チェックしその人にあった補食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食はみがき励行、出来ない方には見守り、介助し誤嚥性肺炎など感染防止に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄パターンに合わせ見守り誘導し、気持ち良く排泄できるよう実践している。	個別の排泄パターンに合わせ見守り誘導し、気持ち良く排泄できるよう実践している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の配慮では毎早朝に牛乳を飲まれたり食事にヨーグルトを付けている。朝食後の排泄誘導を徹底している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の好み、希望を配慮し毎日入られる方、個々の状況にタイミングを合わせ気持ち良く入れるよう工夫している。	入浴の好み、希望を配慮し毎日入られる方、個々の状況にタイミングを合わせ気持ち良く入れるよう工夫している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にありのままに暮らせる環境を基本にしている。室温、湿度計の設置や寝具の好み、工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬剤の効能書はいつでも見られるようファイル化されている。また新しい薬の場合は諸注意を追加し介護計画に明記し観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力が表現できるようレク、作業を考え行い活躍、役割りをになっただき、日々の生活に「喜びと楽しさ」があることを第一に考えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で自宅を訪問したり、馴染みのお店に食事に出かけている。ボランティアのドライブや買い物にも出かけている。家族で毎月、外食もしている方もいる。	本人の希望で自宅を訪問したり、馴染みのお店に食事に出かけている。ボランティアのドライブや買い物にも出かけている。家族で毎月、外食もしている方もいる。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	イベント（夏祭りの夜店）、日用品を購入時には支払いいただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日々の電話は自由であり、家族からあった時はゆっくり話されている。手紙や小包みのやりとりもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、室内に草花を飾り季節事の作品、金魚などで温かく、親しみやすい雰囲気である。物理的環境に制限があり、狭いのでスタッフは私語を慎み、笑顔を心がけている。	玄関、室内に草花を飾り季節事の作品、金魚などで温かく、親しみやすい雰囲気である。物理的環境に制限があり、狭いのでスタッフは私語を慎み、笑顔を心がけている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生かされる空間が少ないので、工夫を重ねて住み易さを追求している。テーブルや座席の位置		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、職員と共にその人らしく、それぞれの品々が置かれている。	家族、職員と共にその人らしく、それぞれの品々が置かれている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力、得意とする作業を取り入れともに行動してその人らしさ、達成感が味わえるよう支援している。カレンダーの掲示、自室、トイレの表示など環境を整えている		

目 標 達 成 計 画

事業所

(有) ライフサポートいずみ

作成日

2010年3月8日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		平成22年3月移転に伴う諸々の変更	関係者の合意がスムーズに進む	2010/1/21の家族会	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。